

曇鸞大師の『論註』の底を通奏低音の如く流れているのは巻頭に置かれた龍樹菩薩の『十住毘婆沙論』の「信方便の易行」の世界なのであろう。

□利行満足章□

▽我一心

▽五念門（五種功德）・・・因の五念

此土の所修 入出功德

行

- ・礼拝門
- ・讚嘆門
- ・作願門
- ・観察門
- ・回向門

▽五種門 二利成就・・・果の五門 成就五種功德

彼土の所得（自利利他の行が彼土に至って成就す）

益

- ・近門 大乘正定聚に入りて阿耨多羅三藐三菩提に近づく
- ・大会衆門 如来の大会衆の数に入る
- ・宅門 仏の説法の会座に列なる大衆のこと 諸上善人俱会一处
修行安心の宅に至る
- ・屋門 心を一処に安住せしめて絶えて動乱無し 大奢摩他寂靜三昧
修行所居の屋宇に至る
- ・園林遊戯地門 今現在説法に列なりて法味を受用する
教化地 菩薩の自娛樂の地
屋舎を出て園林に逍遙する 十方に遊化する

五念成就して彼土に生まるることを得るので、五念が別時に顕現するのではない

（住岡夜晃先生『論註講義』）